

## JO-49 児童養護施設において福祉職が看護師に求める役割

筆頭演者:木村智一(駒木野病院)

共同演者:塩飽 仁、鈴木祐子(東北大学大学院医学系研究科)、相墨生恵(東北文化学園大学)、井上由紀子、名古屋祐子、横山千恵、鈴木千鶴(東北大学大学院医学系研究科)

**Role of nurses working at the children's home that welfare jobs demand it from**  
Speaker: Tomokazu Kimura(Komagino Hospital)

【目的】児童養護施設で子どもと関わる福祉職が看護師に求める役割を明らかにする。

【方法】日本国内 589 か所の児童養護施設に勤務する福祉職を対象に郵送による自記式質問紙調査を実施した。

先行研究から看護師の役割と考えられる 22 項目を抽出し、福祉職はどの程度困難を感じているか、また看護師がいる施設の福祉職は、看護師がいてどの程度助かっているか 4 件法で回答を求めた。さらに、看護師がいない施設の福祉職は、看護師に何を依頼したいか自由記述で回答を求めた。

【倫理的配慮】所属機関の倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】回収率は 35.7%(215/589 施設)であり、看護師がいる施設は、31.2%(67/215 施設)であった。福祉職の 8 割以上が困難を感じている項目は「性教育、性的問題対応」という 1 項目のみであった。一方で、看護師がいる施設の福祉職の 8 割以上が「応急手当」、「感染症対応」、「一時的な受診判断」といった 15 項目で助かっていると回答していた。また、自由記述の分析から、【病院の受診判断、通院の対応】、【職員への児童対応に関する保健指導、教育】、【子どもの健康管理】といった 14 カテゴリーが生成された。

【考察】困難を感じている福祉職は少ないが、看護師に子どもの傷病への対応、健康増進、疾病予防、教育・指導など子ども達に関わる役割と職員への教育・指導による福祉職の知識や技術を向上させるための役割を求めているといえる。

謝辞 本調査は、NPO 法人 福島県の児童養護施設の子供の健康を考える会共同代表の澤田和美先生、丸 光恵先生とともに実施いたしました。調査の企画においては、児童養護施設青葉学園園長の神戸信行先生ならびに児童養護施設福島愛育園園長の齋藤久夫先生にご助言とご指導を賜りました。また調査実施に際しては、全国児童養護施設協議会前会長の加賀美尤祥先生にご支援いただきました。先生方には衷心よりお礼申し上げます。そして調査にご協力いただきました全国の児童養護施設の皆様に厚くお礼を申し上げます。

出典 本稿は、2014 年 9 月 14 日に名古屋で開催された、第 20 回国際子ども虐待防止学会世界大会(ISPCAN)・第 20 回日本子ども虐待防止学会学術集会(JaSPCAN)で口演発表した抄録を電子化したものである。